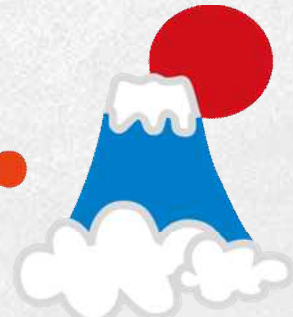


暮らしの瓦版

2013年1月号



住宅リフォームのはじめ(4)

【定期的なメンテナンス1 屋根】
住まいを長持ちさせるためには、定期的なメンテナンスを行なうことが最も大切です。特に外部に面している屋根と外壁や窓廻りについては、雨漏りなどの不都合が生じる前にメンテナンスを行なうことが大切です。雨漏れが発生すると、天井や壁に染みがつき内装のリフォームが必要になるだけでなく、構造部分の木材が腐ったり、白蟻の原因や金物の腐食の原因ともなります。さらに、地震や台風に対する住まいの強さまでも失われてしまいます。トラブルが生じる前に定期的に点検やメンテナンスを行なうことが重要になります。

では、実際にはどのようなメンテナンスが必要なのでしょう。屋根については、屋根材の種類によって点検やメンテナンスのタイミングが変わってきます。
陶器瓦などは、メンテナンスは割れや剥れの補修と棟や接合部分の漆喰の塗り替えなどが主なメンテナンスとなります。また汚れがたまりと雨水が上手く流れなくなるとトラブルの原因となる可能性もあるので、清掃もメンテナンスに加えるところが必要です。セメント瓦やコロニアル瓦は、表面の塗装面を健全に保つことが大きなポイントになります。塗装面は一般的な塗装で10年程度、耐久性の有る塗装でも20年くらいでチェックや再塗装、交換が必要です。その際には、接合部分、コーキング、水切り金物などのチェックと補修を同時に行ないます。

金属板の場合、素材の種類によってメンテナンスが変わります。カラー鉄板は表面の塗装が傷むと錆びてしまうため、10年以内での再塗装メンテナンスが重要となります。亜鉛鉄板は鉄板より錆びにくいのですが、耐久性があまりないため10年以内での再塗装が望ましいでしょう。また塗装時に破損チェックも、必要があれば補修を行ないます。ガルバリウム鋼板は塗装が剥れても耐久性が高いので、塗装の色落ちなどが気にならなければメンテナンスの間隔は長くて済みます。銅板やステンレスなど耐久性が高い屋根材で、メンテナンスは基本的に必要ありません。ただ酸性雨などで腐食が進むこともあるので、定期的なチェックを行い、破損部分のチェックと補修が主なメンテナンスとなります。



季節の風物詩 「明けましておめでとう」



正月は春の始まり「立春」とも考えられており、人々は春の訪れがもたらす生命の誕生を心から喜びました。「めでたい(芽出度い)」という言葉は「新しい春を迎え芽が出る」という意味があります。新年に言う「明けましておめでとう」という言葉は、年が明け歳神様を迎える際の祝福の言葉でした。つまり、神様への感謝の言葉を人々の間で交わすことにより、心から歳神様を迎えたことを喜びあつたということなのです。

生活 メモ 「2013年 巳年」



2013年(平成25年)。干支は「巳」。十二支は動物が割り当てられますが、巳年には蛇が当てられています。十二支は更に細かく言うと「癸巳」となります。本来、干支とは十二支のことで、10と12の最小公倍数である60にあてはめていくものなのです。十干は癸、十二支は巳となり、組み合わせでいくと癸巳は30番目となります。複雑な事象を説明する思想として知られる中国発生の陰陽五行説では、癸は陰の水に割り当てられていて、日本では水の弟(みずのち)とされています。水の兄は陽の水ということになります。十二支の巳は陰の火となります。この二つの要素はお互いに影響を与え合うとされていて、癸巳は、相手を抑える陰の関係である相剋、水剋火です。水と火なので納得です。2013年の干支「巳」は、甘譜では「止む」という意味で、草木の成長が極限に達した状態を表していると考えられています。「巳」は、十二支の6番目。陰陽五行で「火」性の陰に当たります。季節は初夏・陰暦の4月、方位は南南東です。

巳と蛇について「巳」という字は、胎児の形を表した象形文字で、蛇が冬眠から覚めて地上に這い出す姿を表しているとも言われ、「起こる、始まる、定まる」などの意味があります。「巳」を動物にあてはめると「蛇」になります。古来より、蛇は信仰の対象となっており、谷神(谷や低湿地を司る)、豊穡神、天候神などとして崇められてきました。祭祀や祀りごとの「祀」に「巳」が用いられているのは、「祀」とは自然神を祀ることをいい、自然神の代表的な神格が巳(蛇)だったからです。また、蛇は脱皮をすることから「復活と再生」を連想させ、餌を食べなくても長く生きることから「神の使い」として崇められ、全国各地に蛇神を祀っている神社があります。たとえば、七福神のひとつである「弁財天」は蓄財と芸能の女神ですが、蛇の形をした神として祀られていることも多いです。また、蛇の抜け殻を財布に入れて蓄財を願うなど、お守りにする風習が今でもみられます。巳の特徴は探究心と情熱。蛇は執念深いとされていますが、恩を忘れず、助けてくれた人には恩返しをすると言われています。

巳年生まれの人の性格 明るくにぎやかな雰囲気が好きで、性格は開放的で朗らか。温かく柔軟な心を持っています。持つて生まれた人柄が周りの人に安心感を与え和ませてくれます。リーダーシップで人を引っ張っていくというタイプではありませんが、いつも側について見守ってくれるような包容力で好感をもたれます。その反面、情緒不安定なところもあります。褒められると素直にすごく喜び、がんばってしまいう単純な一面も。少々浪費癖があるので出費に注意。

生活 メモ 「正月飾り」



「1年の計は元旦にあり」と日本人なら誰もが思うように、お正月は新しい1年を始める大切な行事です。門松を立て、しめ縄を張り、鏡餅を供えて、年神様というその年の幸福を約束する神様を迎えます。年神様は皆にその年の新しい命を授けてくれるので、正月がくると、皆がひとつ年をとるといった感覚がありました。これが昔の「数え年」です。家をきれいに掃除して、正月準備を整え、清らかで落ち着いた気持ちで新しい年を迎えたいものです。

正月飾りの例、例えば、門松やしめ縄は家庭に幸せを届けられる年神様の目印として玄関に飾ります。元々は五穀豊穡を祈願する節句の行事でした。年神様は穀物霊で、農耕儀礼を重んじる農耕の神様です。日本人は農耕で繁栄してきた人種で、日本人と農耕は深い関係にあり、正月はその農耕の神様をお迎えする大事な行事だということになります。お正月飾りの主なものに門松やしめ縄、鏡餅などがあります。

お正月飾りの飾り付けはいつがよいのでしょうか。12月13日は「正月事始め」と言い、お正月飾りやおせち料理の準備を始めるのに良い日だとされていますが、年末中に飾り終えればよいでしょう。但し、大晦日は「一夜飾り」と言われ、葬儀の前夜を連想し、よくないとされています。29日は9が「苦」を連想するので避けられる習慣もありましたが、現在では29を福とすることもあり、縁起がよいともされているようです。ではお正月飾りはいつまで飾っておけばよいのでしょうか。これは地方により又は習慣によって異なります。7日までという説や、15日までという説などがあります。正月飾りを片付けるまでを松の内と言いますが、これは木の松ではなく、「待つ」という意味だそうなんです。また、鏡餅は11日の鏡開きに調理するので、他の正月飾りも11日に外すという例もあります。一般的には、やはり15日のどんど焼きという火祭りや燃やすというのが習わしなのです。

お雑煮



元々雑煮は、年神様に供えた餅を神棚から下ろし、野菜や鶏肉などで煮込んで作った料理で「雑煮餅」ともいいました。正月の食べ物ではなく、室町時代頃の儀礼的な酒宴などで出されたのが始まりだそうです。宴の始まりに頂く縁起物の料理だったので、それが一年の始まりに頂くものとして庶民の間にも伝えられていったようです。

雑煮は、地域によってそれぞれ特色があります。丸餅か角餅か。焼くか焼かないか。白味噌か...などなど本当に様々です。一般的には関東が角餅、関西が丸餅。関西で丸餅を使うのは、年神様に備える鏡餅をかたどっているためといわれています。また、沖縄は雑煮を食べる習慣はないようです。

修繕リフォームから新築工事の建物の事
優良土地活用から物件探し等の土地の事
北本建設株式会社
埼玉県北本市古市場3-131 TEL: 048-591-1234
URL: http://kitaken1970.com FAX: 048-591-0019

01月 暮らしのカレンダー

睦月、祝月、嘉月、震染月、端月、初月、建寅月、元月、泰月、太郎月、早縁月、年端月、年初月

1日	元日	7日	七草・人日	15日	小正月
2日	初夢	11日	鏡開き	17日	冬土用
5日	小寒	14日	成人の日	20日	大寒・二十日正月